

児童発達支援 事業所における自己評価結果(公表)

公表: 令和02年03月01日

事業所名 スタジオそら学芸大学

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	①	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係が適切であるか	4	2	児童の特性によって利用人数を変更する	同時間利用児童のプログラム構成を事前の話し合いで調整し、最良の活動ができるよう考える
	②	職員の配置数は適切であるか	6	0	シフト作成時の調整(希望休など)	今後も継続して実施
	③	生活空間は、本人にわかりやすい構造化された環境になっている。また、障害特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	4	2	視覚でわかりやすいよう、イラストや写真で準備の流れや危険個所の注意を示している	壁と柱の凹凸が分かりづらい箇所は、弱視の児童にもわかりやすいようテープ等を貼るなどして安全に配慮する。
	④	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっている。また、子ども達の活動に合わせた空間になっている。	6	0	毎日の清掃	今後も継続して実施
適切な支援の内容	⑤	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に広く職員が参画している	6	0	振り返りとモニタリングの実施	今後も継続して実施
	⑥	保護者向け評価表により、保護者に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善に繋げている	6	0	アンケートの配布	今後も継続して実施
	⑦	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	6	0	ホームページで公開	今後も継続して実施
	⑧	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	0	6		
	⑨	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	6	0	伝達研修や研修記録を用いてスタッフ全員への周知を行っている	今後も継続して実施
業務改善	⑩	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	6	0	保護者へのヒアリング・支援の振り返りと評価を必ず行い支援計画の作成を行っている	今後も継続して実施
	⑪	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している	6	0	ASQ3の実施	今後も継続して実施
	⑫	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	6	0		今後も継続して実施
	⑬	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	6	0	支援計画に沿ってプログラムを構成し、記録も支援計画に合わせて記載する	今後も継続して実施
	⑭	活動プログラムの立案をチームで行っている	5	1	小集団プログラムに関して話し合いを行う	小集団プログラムに関してはチームで行っているが、個別プログラムに関しては個々で構成を行うことが多い。支援計画更新時や日頃の支援を行う中で個別のプログラムに関しても目的等を把握し、同一の支援を行うことができるようにする
	⑮	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	6	0	一つの支援目標をさらに細分化し、スモールステップで到達できるようプログラムを組み立てる	今後も継続して実施
	⑯	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成している	6	0	個別で活動に慣れてきた頃を見計らって、年齢と課題に合った小集団をお勧めする	今後も継続して実施
	⑰	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	5	1	前日に担当を割り振り、当日の朝に利用スペースの順番等も含め打ち合わせを行っている	支援の内容についての打ち合わせも行うようにし、クオリティを均等化させる
	⑱	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	6	0	終礼を毎日行い、保護者からの情報と児童の様子を共有し記録に残している	今後も継続して実施

児童発達支援 事業所における自己評価結果(公表)

公表: 令和02年03月01日

事業所名 スタジオそら学芸大学

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
	①9 日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	6	0	提供記録をその日のうちに作成。前回の様子と比べ、次の支援の検討も行っている。	今後も継続して実施
	②0 定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	6	0	提供記録を元に振り返りを行い、担当した療育士の評価に基づいて次回支援計画の作成を行う	今後も継続して実施
関係機関や保護者との連携関係機関や保護者との連携	②1 障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	6	0	療育士からの聞き取りと、記録データを確認し、参加している	今後も継続して実施
	②2 母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	0	6		子育てひろばや保育園と連携をし、生活の中で一貫性をもった指導・支援を行うことで子どもの安定した育みにつなげる
	②3 (医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合)地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている	— (該当なし)	— (該当なし)		
	②4 (医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合)子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている	— (該当なし)	— (該当なし)		
	②5 移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	6	0	支援にあたり他の利用機関(保育園・幼稚園・施設)との一貫性が必要と思われる児童に対しては、保育参観をさせていただき、お話を伺わせて頂く等を行う	今後も継続して実施
	②6 移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	6	0	学校公開やサービス会議の際に学校に出向き担任の先生とお話をさせていただき、ご要望に応じて所見書などを作成して支援内容や活動中の児童の様子を伝えるなどを行う	今後も継続して実施
	②7 他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	0	6		積極的に連絡をとり、子どもを多面的に支援できるよう心がける
	②8 保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会がある	0	6		
	②9 (自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	0	6		
	③0 日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	6	0	フィードバックで活動時間中の様子を伝えるとともに保護者からも日頃の様子を伺う他に、療育時間中に集団生活の中で気になっていること等のお話を伺っている	
③1 保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている	0	6	プログラムの実施はないが、保護者から相談を受けた際に提案やアドバイス等を行っている	今後も継続して実施	

児童発達支援 事業所における自己評価結果(公表)

公表: 令和02年03月01日

事業所名 スタジオそら学芸大学

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標	
保護者への説明責任等	③2	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	6	0	初回契約時に必ず行う	今後も継続して実施
	③3	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	6	0	更新の前月には同意が得られるよう作成し、子どもの支援目標と課題の説明を行っている	今後も継続して実施
	③4	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	6	0	支援計画更新時に面談を行っている	今後も継続して実施
	③5	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	0	6	父母会等の活動支援や開催は行っていないが、保護者同士で連携がとれるよう待合室を設け、療育中にご利用をいただいている	父母会は、開催のニーズがあれば検討を行う
	③6	子どもや保護者からの相談や申し入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申し入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	6	0	相談等の申し入れがしやすいよう、フィードバックの際に『何かありますか』と伺う、待合室に面談希望票を設置するなどの整備を行っている。また、相談事に関してはその場で対応し、面談を希望される場合は日程調整を行い実施している	相談や面談を申し入れしやすい環境を再考する
	③7	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	6	0	毎月の小集団プログラムのご案内メールに活動概要を記載、長期休業前に行事予定の配信を行っている	今後も継続して実施
	③8	個人情報の取扱いに十分注意している	6	0	鍵のかかる書庫を活用し、個人情報の管理は徹底させている	事務所内での話の内容や個人名等について配慮する
	③9	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	6	0	特性によって指示方法を変える。	今後も継続して実施
	④0	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	0	6		実施予定なし
非常時の対応	④1	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	6	0	マニュアルを保護者待合室に設置、スタッフに対しては伝達研修を行っている	今後も継続して実施
	④2	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	6	0	年に2回以上の避難訓練を行う	今後も継続して実施
	④3	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	5	1	フェイスシートに服薬等について記載されている。年度毎に書き換えを保護者に依頼。	年度途中に変更があった場合、お知らせいただけるよう事前をお願いする
	④4	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	0	6	アレルギーについては、契約時に聞き取りを行っている。エビベンの使用方法については事務室内に掲示し、全スタッフに周知しているが、所持しているエビベンについての事前確認や、医師の指示書の確認は行っていない。	食物の提供は行っていないが、皮膚付着からの症状も考慮し、今後の対応を考える
	④5	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	6	0	毎日の終礼で当日のヒヤリハットを報告し記録している	今後も継続して実施
	④6	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	6	0	職員の伝達研修を実施している	今後も継続して実施
	④7	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	6	0	児童本人の安全のためであることを説明し、了承を得た際には、支援計画への記載の他に書面を交わしている。	今後も継続して実施

この「事業所における自己評価結果(公表)」は、事業所全体で行った自己評価です。